



国際会長

2020-2021年度主題

Jacob Kristensen (DK)
「価値観・エクステンション・リーダーシップ」
“Values, Extension and Leadership”

アジア太平洋地域会長 David Lua (SG)

「変化をもたらそう」 “Make a Different”

東日本区理事

板村哲也 (東京武蔵野多摩)
「変化をたのしもう」 “Let’s enjoy Changes”

クラブ会長

鈴木 茂
「相手の立場に立って考え、行動しよう！」
スローガン：「思いやりのあるクラブ運営」

2019-2020 クラブ役員

会長	鈴木 茂
副会長	辻 剛
書記	今城 高之
会計	鈴木 恭子

今月の成句

「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身につけて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」

フィリピの
信徒への手紙 1：8～9



謹賀新年

《巻頭メッセージ》 パン作りのすすめ 今城高之

これまでもSNSに発信してきたのでご存じの方もおられまじょうが、実は私、今パン作りに勤しんでおります。趣味といってもいいかと思っています。もともと、書画音曲等の才能には乏しく、クリエイティブな活動もしないままこの歳に至ったのですが、以前からCookingには関心があり、手先もそこそこ器用なところから、厨房で過ごす時間が、普通のおじさんより多かったのは事実です。ただ、おかずは作ってもパンはパン屋さんから買ってくるものだったのが、昨年の今頃からパン作りを始めました。スマホのアルバムに残っている最初のパンの写真の日付が2020.1.20とあります。何で？と



(バゲット)

問われても特に思い当たる節はあり(パンドカンバーニュ)ませんが、Youtubeでパン作りの動画を見て痛く興味を引かれたのを覚えています。また、その頃からコロナ禍が始まり、家で過ごす時間が長くなったこともあるでしょう。粉をこね、パンの形にして焼くという作業は、昔ちよっとかじった「陶芸」と相通じるものがあり、作業中は頭の中から雑念

が消えすっかりとした気分になれます。さらに面白いのは、パン作りの主役である酵母菌の働きです。手を抜いたり、レシピ通りに扱わないと予定の結果をもたらしてくれません。その反面、材料の計量、温度の管理など細心の注意を払って取り組むと期待した結果が得られます。当初、本を読んだりインターネットで調べたりして試行錯誤を繰り返していた際、友人より、隣家の奥様がパン教室を開いておられるという話を聞き、早速紹介してもらいました。2時間強のレッスンで作ったパンは、これまでの我流で作ったパンとは大いに異なり、見た目も味も格段に優れたものでした。以降、すっかり調子づいて、レッスンで



(山食)



(ベーグル)

習った食パン(山食)と“クッペ” “バゲット”などハード系、更には、我流で習得したベーグルを中心に、ひたすらパンを作り続けています。大した体力も必要とせず、道具・設備なども極めてリーズナブルなパン作りは、高齢者には最適の「趣味？」と言えます。朝は必ずパン食の我が家では、この1年間でパン屋さんのパンを買ったのはほんの1・2度、経済的にも我が家の家計に貢献していると信じています。(完)

1月本例会

日時：1月22日 17:00～

場所：かけはし都筑

司会 横田隆久、受付 林 茂博

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条
3. 今月の聖句 相賀チャブレン
4. ゲスト・ビジター紹介
5. 新入会員入会式
坂口直樹さん
6. 会長挨拶
7. クラブ総会
* 議長選出と定足数確認
* 議案審議
8. 協議事項
* 緊急事態宣言下の
クラブ活動・行事
9. 今後の行事予定(別掲)
10. 活動報告
11. YMCA報告
12. Happy Birthday
(胡麻尻さん、鴨下さん)
13. アピール等
14. 閉会点鐘

《例会報告》

2021年1月度事務例会

当クラブでは、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑みて、1月の事務例会（1月12日に予定）は対面での会議を開催しないことと決め、会長があらかじめメンバーに配布した例会のレジメを基に「誌上例会」を行った。

誌上例会の次第は以下の通り；

1. 会長挨拶
 コロナ感染防止のため、例会次第に基づく誌上例会とする。
2. 協議事項
 ①2021年1月本例会は、クラブの年央総会および坂口直樹さんの入会式が予定されている。コロナ感染拡大の中ではあるが、可能であれば予定通り1月22日（金）17:00より「かけはし都筑」にて開催したいが、状況変化がある際は改めて相談する。
 ②次期国際会長及びエリア会長、国際評議員の選挙は、各クラブ会長によりオンライン投票で行われるこ

ととなった。（期限：2021年1月29日）
 提示された候補者の中からクラブ役員で相談して投票する。

③Change!2022ニュース # 18が発行されているのでご活用いただきたい。

3. 今後の行事予定
 1/22(金)17:00～ 1月本例会(クラブ総会)と坂口直樹さんの入会式
 2/9(火)17:00～ 2月事務例会 @夢Café
 2/15(月)後期区費・各種献金納付日
 2/26(金)17:00～ 2月本例会 卓話 鴨下純久 北Y館長 @かけはし都筑
 3/9(火)17:00～ 3月事務例会@田園都筑教会
 3/26(金)17:00～3月本例会 卓話 吉原訓さん (とつかクラブ) @かけはし都筑
 以上

《会長のひと言》

“ワイズにおけるクリスチャニティー”

会長 鈴木 茂

皆さま、新年おめでとうございます。今年は早期にコロナ禍から解放されて、通常通りの例会、部大会、区大会等を開催し、ワイズの飛躍の年にしたいと心から願っています。

さて先般私は、東京西クラブの吉田明弘さんからブリテン誌上インタビューの依頼を受けました。気恥ずかしい思いもありましたが、勇気を出してお受けしました。その中で吉田ワイズから、「ワイズの中でのキリスト教儀礼に批判的ですね」との質問がありました。

私は自分自身がキリスト教徒ですので、ワイズの例会等

におけるキリスト教儀式に個人的には何ら抵抗はありません。ワイズメンは、国際憲法や東日本区定款に明記されている「イエス・キリストの教えに基づいて活動する」という基本理念を承認、誓約してワイズに入会した筈です。その誓約に間違いがない限り、例会等における儀式的なことにあまりこだわる必要はないと考えています。現に、私の周りのノンクリスチアのワイズメンでも、例会等におけるキリスト教儀式に特に違和感はないと仰る方々がほとんどです。しかし、万が一違和感を持たれる方々がおられるならば、その方々にも十分配慮することがワイズの組織としての務めであると考えます。私が重視したいのは、個々のワイズメンが日頃のYMCA、地域活動の中で、イエス・キリストの教えの実践を目指すことでもあります。 以上

～2月の予定～

- ◆2月の事務例会 2月9日（火）17:00～ @夢Café
- ◆2月の本例会
 2月26日（金）17:00～ @かけはし都筑
 ※鴨下さんの卓話
 ・司会： 今城高之 さん
 ・受付： 岡崎さよ子さん（報告書）
- ◆2月号ブリテン巻頭メッセージ 山添 訓さん

日本キリスト教団出版局が発行する「こどもさんびか」にはこどもたちのための日々のお祈りが記されているのでご紹介します。

- ◇あさのいのり
 かみさま、あたらしいいちにちをありがとう。きょうも、かぞくのみんなをおまもりください。すきなともだち、すきになれないともだち、いろんなともだちがいます。ひとりひとりをきょうもおまもりください。
- ◇ゆうべのいのり
 かみさま、きょういちにちをありがとうございました。あさがくるまでおまもりください、かみさま。
 （今城宏子）

12月のデータ

横浜YMCAのクリスマス会へ合流のため例会は開催せず。

例会出席	名	在籍会員数	17名	各種記録	12月実績	年度累計
メンバー	名	月間出席者数	名	スマイル	0円	40,090円
ビジター	名	メ・キャップ	名	—	—	—
ゲスト	名	月間出席率	%	—	—	—

北 Y 便り

横浜北YMCA 主任 関口 努



横浜YMCAでは、コロナ渦ではありますが冬休みに三浦YMCA・富士山YMCA・YMCA東山荘の3施設を利用しウインターキャンプを実施しました。今回のキャンプは、Go Toトラベルキャンペーン（以下Go To）の対象として準備を進めてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、キャンプ直前にGo Toが停止となりました。キャンセルが多く出ることを心配していましたが、各ご家庭にキャンプ運営上での安全面の対策やYMCAの施設内での実施のため隔離性があることをお伝えし、3施設共にキャンプ実施をすることができました。私が担当した富士山YMCAのキャンプは、5名のキャンセルを受け、最終的には25名の参加者となりました。

いつもですとキャンプ期間中は、子どもたちが宿舎を走りま

制限しながらのキャンプとなりました。その他にも食事とお風呂の時間以外はマスクの着用、ソーシャルディスタンス、手洗いや消毒の徹底など制限もある中ではありましたが、子どもたちはキャンプを大いに楽しんでおりました。キャンプ期間中は天候と気候にも恵まれ、誰一人として体調を崩すことなく無事終えることができました。



この原稿を作成中に2回目の緊急事態宣言が発出されました。なかなか新型コロナウイルス感染の終息は見えませんが、安全を最優先し、YMCAの活動を継続していきます。引き続きワイズメンズクラブの皆さまからご支援を賜りますようお願い申し上げます。（完）



わる足音や歌声、笑い声などがこだまするのですが、今回は飛沫感染を防ぐこともあり、歌うことや大きな声を出すことも

《お便り》 以前、我々のクラブとIBC関係にあったデンマークのランズクラブのリーフ・レプショルト（Leif Repsholt）さんより鈴木会長あてにメールが寄せられました。仮訳を以下に掲載します。なお、鈴木会長が返信をされると伺っていますので、何れご紹介いただけるものと思っております。（編集子）

親愛なる鈴木茂様、

最後のお便りから一年が過ぎようとしていますが思い立ってメールをお送りします。昨2020年は色々な意味でひどい年でした。幸いにも私も妻もCovid-19に感染することなく元気にはしていますが、様々な制限が課され日々思うように参りません。

昨年は、3月から8月まで海際のサマーハウスで過ごしました。夏が過ぎれば事態は好転するものと期待していましたが、期待は裏切られ、今、私たちの国はロックダウン状態で、ほとんどの店は閉まっており、一緒に過ごせる人数も5名に制限されています。

ワイズにとっての最悪事態は、昨年8月にOdenseで予定されていた世界大会がキャンセルされたことで、我々にはとてつもない経験となりました。一途の希望は、2021年の区大会が同じくデンマークで開催されることに決まったことです。私たちのクラブは、長年新入会者を待ち望んでいます、

実現せず、現在会員は15名で、そのうち12人が70歳以上です。恐らく何処も同じような状況でしょう。プロブディフ・クラブとはメールで交信するのみで、昨年は顔を合わせることもありませんでした。彼らは現在10名のメンバーしかいないため支援を要しており事態の改善が望まれます。

日本においてもCovid-19の感染が広がっていると聞きます。貴殿のご家族、つづきクラブの皆様に感染が及んでいないことをお祈りしております。

私のファイルには貴殿からいただいたほとんどのメール、写真、カードなどが納められており、時折、ファイルを開いてそれらを見て懐かしい良き思い出を辿ることが楽しみです。

我々の友情ならびにワイズのメンバーでいることを感謝しています。あなたご自身もご高齢ですが、どうかお元気で、また貴クラブが健全でおられることを祈っております。

親愛を込めて、

リーフ・レプショルト

《参加報告》

2020年横浜YMCAクリスマス会

(今城高之 記)

去る12月19日、横浜YMCAのクリスマス会が、通常と場所を替えて日本キリスト教団紅葉坂教会で開催されました。これまで我がつづきクラブでは、この横浜YMCAのクリスマス祝会をクラブ例会(兼クリスマス会)として参加してきましたが、昨年は新型コロナウイルス感染拡大が懸念されたため、礼拝関係者を除いて教会に集まることをせず、Youtubeによるライブ配信での参加となりました。

礼拝は、紅葉坂教会牧師・横浜YMCA常議員の荒井仁先生による『家畜小屋のイエス』と題するクリスマスメッセージをいただきました。風が吹き抜ける家畜小屋に生まれたイエスに思いをはせ、コロナ感染拡大の状況下、経済的な困難を抱えている人、生活の大きな変化に悩む人、学びに困難を抱えている子どもたち、将来に不安を感じる人・・・等、愛と優しさを必要とする大人や子どもたちにイエスの誕生の喜びで示された神の愛と優しさ伝える。私たちが心を開くことで愛と優しさは伝わり、相手のぬくもりもこちらに伝わってくる。与えられた出会いの中で、イエスの誕生の喜び、神の愛と優しさを多くの人々と分かち合えるよう心を開きたいと願っている、と語られました。パイプオルガンの美しく力強い響きと、横浜YMCA学童クラブや保育園の子どもたちによる讃美の手話動画も映し出され、クリスマスの喜び

が表現され、共に相集うことが出来なかったにもかかわらず心に残る礼拝となりました。

礼拝後、恒例となっている横浜YMCA翌年度内定者の紹介、寄せられた当日の献金は、ポジティブネット募金(新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける横浜YMCA専門学校学生への支援金)として用いるとの報告がありました。

最後に工藤誠一横浜YMCA理事長により、「今年はコロナ禍の中で過ごした一年でした。まだその不安は続き、様々な不安が私たちの心を闇のように覆っています。しかし、聖書は、御子イエスの誕生という大いなる光の到来を告げています。心を開きこの光を迎え入れる喜びの時とし、この新型コロナウイルスの終息を願いながら主イエス・キリストのご降誕を感謝しお祝いしたい。また、クリスマスが全ての人の喜びと希望の出来事となることを願いたい。クリスマス会の実施に協力いただいた紅葉坂教会の皆様、横浜YMCA関係者の皆様のお働きに、心から感謝申し上げます。」・・・との閉会のご挨拶がありました。(完)



《報告》

第23回

横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン

今回の横浜YMCAチャリティーランは、新型コロナウイルス感染予防対策として、例年の臨港パークにおける集合開催ではなく、オンライン配信による異例の分散開催になりました。具体的には各参加チームとも、2020年11月14日(土)～11月30日(月)の17日間に、各チームで設定したコースで決められた距離(幼児:1人200m、一般:1人1000m)を走り、終了後にその様子(写真・動画等)やタイムをYMCAのWEBサイトに報告して、

順位賞や特別賞(コスチューム賞など)を決定する方式で開催されました。

つづきクラブがスポンサーとなって出場したチームは、横浜北YMCAの幼児サッカーチームの「つづきレッド」です。Aコースに出場し、26位となりました。開会式、競技の様子、閉会式などがYouTubeで動画配信されました。今回のチャリティーラン大会全体の成果としては、出場チームが全体で73チーム、収入4,030千円(マスク販売代金含む)、支出130千円、差引き3,900千円の障碍児・者支援金を達成することができたとの報告が横浜YMCAから届いています。(鈴木茂 記)

《お願い》

年度後半に入りました。下半期の会費納入はお早めをお願いいたします。

振込先: 横浜銀行 菊名支店 (395)
 口座番号: 1330228
 講座名: 横浜つづきワイズメン & ウィメンズクラブ

▽カオスの一年は終わりましたが状況には変化がないどころかさらに悪化してしまふ▽こんな中でボランティア活動の在り方が問われています。特に我々高齢者の場合、周りに迷惑をかけるような「家でじっとしている」ことが最善だとすると悲しい気もします▽一人一人の日々の過ごし方、家族との関わり方等を改めて見直す良い機会かも知れませんが、「不要不急」が叫ばれる問題は、個人の都合をどう考えるかが問題ではないでしょうか▽人それぞれに異なる事情もあることを互いに認め合う、そんな社会が好ましい社会ではないでしょうか。不要不急をいかに実践すべきか難しい課題です▽様々な問題を投げかけつつ新型コロナウィルスはさらに力を増してゆきます。▽そんな中、人間関係がギスギスするのは正にコロナの「思うつぼ」、陥らないよう、窓を開けて空に向かつて深呼吸をしてみませんか。(編集子)

▽▽編集後記△△△